井伊氏の歴史　～井伊直虎を中心に～

スライド本文・補足説明

◎スライド No. １

　平成 29 年の大河ドラマは、静岡県浜松市北区井伊谷を中心とした『おんな城主直虎』でした。歴史文化情報センターでは、その井伊直虎についてまとめた教材を作成しました。地域学習の一つとして御利用していただければと考えています。

　「井伊氏の歴史」に興味を持たれた方は、直接歴史文化情報センターまで御連絡下さい。資料提供の案内をいたします。皆さまのご利用をお待ちしております。

歴史文化情報センター　　電話　　０５４－２２１－８２２８
メール　rekibun02☆tosyokan.pref.shizuoka.jp
（☆を＠に変更してお問い合わせください）

◎スライド No. ２

　井伊氏は、井伊谷を中心とした地方役人であり、平安時代から土豪として勢力を持っていました。戦国期には今川家の支配下にありましたが、後に徳川四天王として活躍する井伊直政や、幕末の困難な政局に立ち向かい桜田門外の変で命を落とした井伊直弼（なおすけ）を生んだ家系です。大老職は、将軍を補佐する江戸幕府最高の職で、定員は一名で常置の職ではありませんでした。井伊・酒井・土井・堀田の四家のみに就くことが許され、江戸期を通じてわずかに九名が就任しただけでした。そのうち五名が井伊家出身者であったのです。（直澄（なおすみ）・直興（なおおき）・直幸（なおひで）・直亮（なおあき）・直弼、直興は直該（なおもり）として再任される）

　では、古代の井伊谷の様子から見てみましょう。

◎スライド No. ３

（右）天白磐座遺跡　（左）渭伊神社（浜松市北区引佐町）

　井伊谷には、井伊谷古墳群と呼ばれる四世紀～六世紀後半の多くの古墳が発見されています。これらから、井伊谷を本拠として栄えていた在地豪族が

いたことが想像されます。

井伊谷には、古墳以外にも「天白磐座遺跡」があります。これは渭伊神社の本殿背後にある巨石を中心とした遺跡で、古代祭祀の場として考えられています。また、渭伊神社は井伊氏の氏神として知られています。

◎スライドNo．４　中世の井伊氏（概略）

井伊氏は、平安末期に遠江守に任じられた藤原共資が井伊谷に住み、井伊氏を称したのが始まりといいます。その子が共保で、誕生には奇妙な伝説があります。

井伊氏は在庁官人として勢力を強め、保元の乱や南北朝期には天皇方に立ち、最後まで南朝方で戦った一族もいたそうです。

室町期には、遠江国北遠地区（現浜松市北区一帯）の国人領主として大きな力を持っていました。井伊氏から派生した庶流家が支えたと考えられます。

◎スライドNo．５　共保公出生の井戸（浜松市北区引佐町：龍潭寺）

井伊氏の始祖といわれる共保公には、井戸で誕生した伝説があります。その井戸がこちらとなります。

この井戸は龍潭寺南側の田の中にあります。井戸のそばには橘の木が植えられています。井伊氏の家紋を橘紋と井桁紋としたのは、この伝説に由来するものであるといわれています。

◎スライドNo．６

井伊谷宮および宗良親王御墓（浜松市北区引佐町：井伊谷宮）

井伊谷宮は明治二年に創建され、後醍醐天皇の皇子宗良親王を祀る神社です。最後の彦根藩主であった井伊直憲が造営に尽力しました。

井伊氏は後醍醐天皇の要請により、宗良親王を奉じて居城井伊谷城に拠って戦いました。宗良親王は各地を転戦された後、この地で亡くなったと伝えられます。現在井伊谷宮の本殿背後に、宗良親王の御墓（「冷湛寺殿」と刻まれた宝篋印塔）がたてられています。立ち入りはできません。

宗良親王の遠江における活躍については、『静岡県史通史編２中世』に詳しく記載されています。

◎スライド No. 7　井伊谷城跡　本丸跡（浜松市北区引佐町）

◎スライド No. 8　井伊谷城跡　現存する土塁・三岳山（浜松市北区引佐町）

井伊氏の本拠は、平時を過ごした居館とその北西に位置した井伊谷城で構成されていたと考えられています。井伊谷城は、井伊氏の本拠として古くからある山城です。南北朝期には宗良親王を擁して南朝方の拠点としても知られている城です。そのため、本丸跡には「御所の丸」と記されています。また、自然の地形を利用した城でした。現在でも遺構として土塁を見ることができます。井伊谷城の後方には三岳山があり、ここには三岳城がありました。

◎スライド No. 9　戦国期の井伊氏（概略）

戦国期になると、国人から戦国大名へと成長するものも誕生しましたが、井伊氏は戦国大名となることはできませんでした。今川氏の力が強大となり、当初今川氏に抵抗した井伊氏は大きく力を落としました。しかし、花蔵の乱の際に、井伊直平（なおひら）は梅岳承芳（ばいがくしょうほう）（後の今川義元）に味方し、その後今川家に属することとなりました。その後当主直盛（なおもり）は桶狭間合戦で戦死、さらに次の当主直親（なおちか）は今川氏老臣（朝比奈氏）により掛川で殺され、男子の後継ぎがいなくなってしまいました。これにより「女地頭 井伊直虎」が誕生します。その後、直親の子直政が徳川家康に仕え、譜代の重臣として大名となりました。

◎スライド No. 10　井殿の塚（浜松市北区引佐町）

井伊直平の子直満（なおみつ）と直義（なおよし）を祀った塚です。直満は直親（なおちか）の祖父であり、直親を男の実子のなかった甥直盛へ養子に出す約束をしていましたが、それを快く思わない井伊家家老の小野和泉守の讒言により、今川義元から謀反の疑いをかけられました。二人は武田氏への内通を疑われ、駿府に召し出され、そこで殺害されてしまいました。小野和泉守は、自らの子を直盛の娘と結婚させ、井伊家を支配しようとしていたと伝えられています。この事件をきっかけに当時亀之丞（かめのじょう）と名乗っていた直親が信州へと逃れることとなりました。

◎スライド No. 11　直親の墓（浜松市北区細江町）

井伊直親は９歳で信州へ逃れましたが、２０歳のとき井伊谷に戻り直盛の養子となり直親と名乗ります。その後桶狭間合戦で直盛が戦死したため、跡を継いで井伊家の当主となりました。しかし、小野和泉守の子でやはり家老となっていた小野但馬守が、直親が徳川氏と通じていると今川氏真に讒言したため、駿府へ弁明にむかいましたが、途中掛川城主朝比奈備中守により殺害されてしまいました。直親と家臣が殺害された場所は詳しくわかりませんが、現在「十九首」という地名の場所ともいわれています。遺骸は都田川岸に運ばれ荼毘にふされました。なお、墓の手前にある一対の石灯籠は、井伊直弼の寄進と伝わっています。

◎スライド No. 12

龍潭寺山門（右）・龍潭寺本堂（左）（浜松市北区引佐町：龍潭寺）

龍潭寺の南渓和尚は、井伊直平の子であり、直盛の娘が出家した際にも面倒を見た経緯がありました。その南渓和尚が考えたのが「おんな地頭」でした。直盛が戦死し直親が殺害され、当主を継ぐべき直親の子虎松がまだ幼すぎたため、直盛の娘であり幼少期に直親の許嫁であった次郎法師を「おんな地頭」としました。井伊氏当主不在という一族存亡の危機に対して、出家していた直盛の娘を井伊氏の家督として、虎松の成長を待つという奇策を打ち出したのです。

◎スライド No. 13

井伊氏歴代墓所（右）・龍潭寺庭園（左）（浜松市北区引佐町：龍潭寺）

龍潭寺には、井伊家関連の様々なものが残っています。井伊家歴代墓所には、初代共保や直盛、直虎、直政など 600 年の歴史が眠っています。ちなみに、正面左側が共保、右側が直盛、左奥から二つ目が直虎のものとなります。

庭園は小堀遠州作と伝えられ国指定文化財となっています。奥に見える建物は井伊家御霊屋です。その他にも境内には、明治の廃仏毀釈の様子を伝える釈迦牟尼仏や宗良親王の御位牌、井伊家の駕籠があり、井伊家の安泰を念じて植えられた梛の木が御神木としてあります。

◎スライド No. 14　連書状

（浜松市北区細江町：蜂前神社所蔵・浜松市中区蜆塚：浜松市博物館保管）

この古文書は、唯一直虎の花押が書かれている蜂前（はちさき）神社の『井伊直虎・関口

氏経連署状』です。内容としては、遠江国祝田郷の特製の実施を祝田禰宜に命じるものであり、今川氏真の命令に直虎が同意したものです。直虎は支配地域での徳政令の実施を二年間ほど遅らせていたのですが、氏真の強い圧力によりしぶしぶ同意したと伝えられています。下側に「氏経（花押）」「直虎（花押）」が書かれています。直虎のものは右側になります。現在文書は、浜松市博物館が保管しています。

◎スライド No. 15　蜂前神社（浜松市北区細江町：蜂前神社）

『井伊直虎・関口氏経連署状』を所蔵している蜂前神社です。浜松市北区細江町中川にあります。

◎スライド No. 16・17　次郎法師置文（龍潭寺文書）

この資料は、龍潭寺を父直盛の菩提寺として定め、様々な税を免除する内容となっています。龍潭寺は、行基により開創され室町時代に禅宗の寺となりました。南渓和尚は龍潭寺第二世とされています。井伊家初代共保からの菩提寺として、代々の当主に深く帰依されてきた寺院です。

なお、この資料に書かれている名前は、井伊直虎ではなく「次郎法師」となっております。最後に黒印とともに「次郎法師」の文字と宛先として「南渓和尚」の文字が見て取れます。

◎スライド No. 18　久留女木の棚田（浜松市北区引佐町）

久留女木の棚田は、浜松市北区引佐町にあります。標高は 250m付近であり、約 800 枚もの田があるといわれ、「日本の棚田百選」や「静岡県景観賞」にも選ばれたことがある棚田です。この棚田は、平安時代に成立したといわれていますが、井伊直平の時代等に井伊家の庇護を受けて開墾が進んだと伝えられ、現在も井伊家家臣の子孫が管理しています。

◎スライド No. 19　渋川井伊家墓所（浜松市北区引佐町）

渋川のボダイジュ付近にある、井伊家墓所と伝えられている場所です。渋川地区は、鎌倉時代から戦国時代にかけて井伊家の重要な拠点とされていました。渋川井伊氏は井伊谷井伊氏よりも一時勢力を大きくしたとも伝えられています。右から５つ目が直親のものと伝えられています。

◎スライド No. 20　妙雲寺と直虎墓所（浜松市北区引佐町）

妙雲寺は、もともと自耕庵と呼ばれていました。井伊直虎の菩提寺であり、直虎の法名である妙雲院殿にちなみ、妙雲寺と改称しました。

直虎の墓所は龍潭寺にありますが、妙雲寺の北側にも直虎墓所と伝えられている場所があります。現在は大河ドラマの影響もあり、きれいに整備されています。

◎スライド No. 21　直虎から直政へ

（浜松市南区頭陀寺町：頭陀寺第一公園・浜松市中区元城町：浜松城）

直虎は、直親の息子である虎松が成人するまでの後見役として、「おんな地頭」となっていました。虎松は、南渓和尚の勧めで三河の鳳来寺に身を隠していましたが、直親未亡人が松下源太郎と再婚することとなり、松下家に引き取られ、源太郎に育てられました。この松下源太郎は、秀吉が信長以前に仕えていた頭陀寺城主松下加兵衛の一族であったといわれています。松下屋敷は現在の頭陀寺第一公園付近にあったと考えられています。

1575 年、15 歳となった虎松を直虎や南渓和尚たちが、徳川家康の家臣とするべく、虎松を家康にお目見えさせました。当時家康は浜松城を本拠としていました。虎松は家康から「万千代」という名を与えられました。後に、井伊直虎として徳川四天王の一人として活躍し、彦根城を与えられるまでに成長する武将の誕生となりました。

そして井伊氏は、幕末まで徳川幕府の重鎮として活躍していくこととなります。

◎スライド No. 23　参考資料

『静岡県史』通史編２中世
『静岡県史』資料編７中世三
『引佐町史』上巻
『湖の雄井伊氏～浜名湖北から近江へ、井伊一族の実情～』静岡県文化財団
『井伊氏とあゆむ井の国千年物語』「井の国千年物語」編集委員会
『次郎法師置文』龍潭寺
『井伊直虎・関口氏経連署状』蜂前神社・浜松市博物館

◎スライド No. 24　協力者一覧（敬称略・順不同）

井伊谷宮・龍潭寺・渭伊神社・妙雲寺・東光院・久留女木竜宮小僧の会
浜松城公園 PDCA グループ・浜松市博物館
浜松市北区役所まちづくり推進課
浜松市産業部観光・シティプロモーション課

●ホームページ等のＵＲＬを表示してありますので、参考にしていただければと思います。